

科目	動物感染症学 (病原体・衛生管理)		
担当講師	仁木隆博		
実務経験有	東海大学名誉教授、農学博士大学教授として 40 年勤務		
開講年次	授業形態	選択/必修	授業時間
動物看護学科 2 年次後期	講義	必修	30
授業目標			
<p>「動物感染症学」で学んだ個々の動物の生命と健康の維持に障害を及ぼす病原体の知識を基に、これらの病原体によって引き起こされる感染症をどのように予防するかを考える。その中でワクチンについても理解し、動物の健康を維持できる管理方法に関する知識を身に付ける。また、感染症の予防の重要性を学ぶことによって、飼い主に対する適切なアドバイスが可能となる。</p>			
授業概要			
病原体、感染防御、ワクチネーションの機序について学ぶ。			
成績評価の方法			
<p>評価の基準は筆記試験による。また本科目受験には出席率が 3 分の 2 以上であることが必要。試験は 80～100 点が A 評価、70～79 が B 評価、60～69 までを C 評価とし、60 点未満は再試とする。再試においては 80 点以上を合格とし評価は C となる。</p>			
教材			
動物看護の教科書 第 4 巻 (緑書房)			
動物看護コアテキスト 3 巻			
動物の疾病と予防及び回復 (P58～P121、P124～P133、P138～P147、ファームプレス)			
講師配布資料			
授業計画 毎週金曜日 2 限目 10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容	
1	動物病原体とは何か ①感染症の成立 ②感染源	3 巻 P 58 感染症の成立 3 巻 P 74～84 細菌および真菌、P 85～99 ウイルス	
2	新興・再興感染症および人獣共通感染症 ①新興感染症とは ②再興感染症とは ③人獣共通感染症 (ズーノーシス)	3 巻 P 126 人獣共通感染症 3 巻 P 126 人獣共通感染症 3 巻 P 126～P 133 人獣共通感染症	
3	感染症の予防 ①感染症が成立する 3 つの要因 ②感染を成立させない方法	3 巻 P 114 感染症の制御 3 巻 P 114 院内感染等の防止	
4	宿主の感染防御 ①感染症の防御 ②ワクチンの利用	3 巻 P 138～139 動物防疫学 4 巻 P 40～49 ワクチンと予防	
5	ワクチン接種の重要性 ①ワクチン接種についての理解 ②動物種による違い ③接種時期	4 巻 P 40～49 ワクチンと予防 3 巻 P 116 接種プログラム 3 巻 P 116 接種時期	
6	ワクチネーション ①ワクチネーションの特性 ②不活化ワクチンと生ワクチン ③ワクチンの効果に影響を与える要因	4 巻 P 40～49 ワクチンと予防 4 巻 P 43 ワクチンの種類 (3 巻 P 116) 4 巻 P 44 ワクチネーションに影響する因子	
7	中間まとめ	1～6 回の授業内容について理解度を確認する。	
8	コアワクチンとノンコアワクチン(1) ①WSAVA ガイドラインのポイント ②イヌのコアワクチンとノンコアワクチン	3 巻 P 116～121 接種プログラム 4 巻 P 44～49 イヌとネコのワクチネーション	
9	コアワクチンとノンコアワクチン(2) ①ネコのコアワクチンとノンコアワクチン ②イヌとネコの混合ワクチン	4 巻 P 44～49 イヌとネコのワクチネーション 3 巻 P 118～119 イヌとネコのワクチン	

10	イヌのワクチネーションプログラム	3巻P116～117 接種プログラム
11	ネコのワクチネーションプログラム	3巻P116～117 接種プログラム
12	ワクチンの開発、製造および品質管理	3巻P118～120 イヌとネコのワクチンおよび診断薬
13	寄生虫症の予防	3巻 P101～113 寄生虫病
14	総まとめ	授業ノートを確認し、各自で重要な部分を認識しながら復習し、質疑応答を加えより深い習得に繋げる。